

## お母さん あのね・・・

「お母さん、お母さん、今日学校でねえ、”なかま”について話し合ったんだよ。」

Aさんは小学校2年生。家に帰ってきて、ランドセルをおろしながらお母さんに話し始めました。

「それでどんな話をしたの？」

「あのね・・・。」

Aさんの話の内容は次のようなものでした。

「わたしの学級はね、運動が大好きで、お昼休みに運動場でドッジボールをして遊んでいるの。学級のほとんどみんなで作っているんだよ。でもね、いつも中に入れずに遠くから見ている子もいるの。だから、学級会で”なかま”について話し合ったんだよ。そしたら、みんなからいろいろな意見が出たの。得意な人も、得意じゃない人もいるんだから無理に入らなくてもいいとか、前に誘ったけど、断られたからいいんじゃないとか。そんな様子の中に入れないうちは黙って聞いてはったんや。そこで先生が『みんなで一緒にドッジボールできたら楽しいよね。得意な人もいればそうでない人もいるし、なかまに入れてって言えない人もいるかもしれないよ。だから、みんなで考えれば、みんなでやれる方法も見つかるんじゃないかなあ。』って言わはったの。」

そんな話をした後Aさんが、「お母さんはどう思う？」とたずねてきたので、お母さんは少し悩みながら、「確かに一緒にやりたくても、なかまに入れてと言えない人もいるかもね。もしあなたがBさんだったらどう思うかな？」って答えたところ、しばらく黙っていたAさんが「明日、Bさんに”一緒にやろう”って声をかけてみるわ。」と言ったそうです。

このような問いかけを子どもからされたとき、親や周りの大人が子どもにどう返していくかで、子どもの受けとめ方は大きく違ってくるのではないのでしょうか。

今、子どもをとりまく「いじめ」の問題も深刻な状況にあります。「いじめ」を許さないという毅然とした態度を大人が示すとともに、自分も他人も大切にできる子どもを育てていくことが大人の責任であると思います。

子どもの話しや考えにあいまいな受け答えをせず、「ちょっと考えてみようね。」と共に考えようとする姿勢こそが大切なのではないのでしょうか。